

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に掲示し共有、日々実践できるよう努めている。	事務所に理念、社訓、ツクイのマナーポリシーが掲げられ、仕事に入る前や全体会議、入職時等に確認し、職員全員が意識しケアに繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議で事業所の活動内容の報告、地域で開催される文化祭に作品を展示。	自治会に入っているが、コロナ禍で利用者と地域の方とのつながりは難しいが、「東吉田区お守り隊」に職員が入っており、地区の困りごとの手伝いをしたり、他の福祉施設との繋がりがあり、情報共有が出来る関係になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで民生委員や区長、行政担当者に介護相談などを承っている事を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見を営業所内の会議で伝達し、サービスの向上に努めている。	今年度は1回防災訓練を兼ねた会議が開催されたが、他は書面で開催となりました。会議メンバーは通常の方々のほか同地区の他の福祉施設の参加もあり、有意義な情報交換ができています。また書面の内容についての貴重な手紙を拝見することができました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議での意見を会議で伝達し、サービスの向上に努めている。	事業所の様子を運営推進会議で報告するとともに、市町村主導の介護支援連絡会に参加し、リモートですが研修や事例検討など連携が密に取れています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束禁止」のマニュアルを職員全員で共有している。定期的に研修を行っている。	近くに線路があり、危険防止のため玄関の施錠はしているが、玄関付近に利用者が近づくとランプが点灯し、さりげなく職員が施錠を開け外に行かれるようにしています。スピーチロックについても日々のケアの中で、職員同士が気を付けながら対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待防止」のマニュアルを職員全員で共有している。定期的に研修を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が学ぶ機会は少ないが、管理者が研修に参加した際、伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、ご本人やご家族様の不安点を聞き、納得いくような説明をし、理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に要望を伺っている。内容によっては会議などで取り上げ、改善に努めている。	年1回アンケートを実施し、家族の要望を確認したり、日頃の様子を知らせる時に意見を聞く等しています。利用者の情報提供の頻度についても確認し、家族の要望に沿って行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議時や、個人面談の機会を設けるなど積極的に意見を聞く機会を設け、改善出来るよう努めている。	年2回管理者との個人面談があり、要望意見等伝えていきます。日々の業務の中や全体会議等で常に話す機会があり、風通しの良い関係になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりに役割を担当してもらい、やりがいを持って業務が出来るようにしている。職員の様子を見て適宜声を掛け、面談をする機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の目標やスキルに合わせた研修に参加出来るようにしている。資格取得の促しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	集合研修などへの参加の促し、施設内CMと管理者は、外部との繋がりを持つようし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に事前面談を行い、要望など情報収集し、安心した生活が送れるようにカンファレンスを行い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に事前面談を行い、介護経験を労いながら、要望や意見など情報収集し、作成したケアプランをもとに支援内容を説明し、理解してもらう事で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	希望している事、目標としている事に関して、必要であれば福祉用具や専門職による機能訓練などを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や生活習慣を大事にし、自宅で過ごしているような環境作り、日常の家事を一緒に行うなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居前に、ご家族様の協力が必要である事を伝え、コロナ禍ではあるが感染対策をした上での面会、必要品の購入など、適宜ご家族様と連携をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居の際、馴染みの物を持って来て頂くなど、ご自宅での環境に近づけるようにしている。家族との思い出の写真を居室に飾る方も多くおり、それを見て職員が声掛けをしている。	コロナ禍で家族との面会が以前のようにできないが、窓越しやパーテーションを利用して面会するなどの工夫をしています。また、自宅付近や以前に出かけた場所(バラ公園紅葉 桜の名所等)を写真やビデオに撮り、大きなスクリーンで見いただいています。	実際に、利用者を馴染みの場所にドライブ等で連れていく機会を提供することを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の生活歴や性格などからホールでの配席の工夫をし、職員が介入しながら、入居者同士が関わり、交流を持てるようなレクリエーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご連絡を頂いた際には、小さな事でも協力出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様一人ひとりに担当者を付け、日常の会話などから本人の意向を把握している。困難な場合は、ご家族様に介入して頂いたり、カンファレンスなど話し合う時間を設けている。	日々の生活の様子や会話から意向を探り、把握が困難な場合は、生活歴や家族からの話、以前利用していたサービス機関からの情報を得たりと、あらゆる方面から情報を集め、利用者の意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人のケース記録に記録し、共有している。本人に聞いて疑問に感じた事はご家族様にお伺いし、明確にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様と関わる事で残存機能を把握し、ご自分で出来る事はご自分でやって頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族様やご本人、場合によっては主治医も交えながら会議やモニタリングを行い、その内容をもとに計画書を作成している。	定期的にモニタリング、アセスメントを行い、職員全体の意見等を集約しケアプランに反映しています。また主治医の参加を得ながら、医療的な情報も具体的に盛り込んだプランになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	急ぎや重要視する内容は口頭で伝えるなど、ケース記録に残し職員が共有している。日々の実践の中で変更が必要とされた時は、計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の要望に沿ったケアに努め、事例のないサービスが必要な際は、実施に向けて職員間でカンファレンスを行ったり、ご家族様にも協力して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員や区長、オーナーからの意見や、行政との繋がりを大事にしている。運営推進会議では、事業所の活動報告をするなど、関係性を保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	業務委託している病院の在宅支援課と連携が取れており、月2回の往診以外にも必要時には往診を受ける事が出来る体制が取れている。	入所時にかかりつけ医の確認を取り、現在は利用者のほとんどのかかりつけ医が、協力医となっています。家族との受診結果の報告もアンケートを活用し、家族が確実に必要としている情報を的確に伝える仕組みが構築されており、事業所・家族・かかりつけ医の連携が密に取れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間のバックアップ体制が取れており、医療的ケアも受けられるような体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提出、入院中は適宜ご様子を伺うように努めている。必要な場合は、職員が退院カンファレンスに参加する事など、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人・ご家族様の意向を優先し、主治医や訪問看護等と連携をとりながら、重度化または終末期になった場合も、対応可能である事を伝えている。	重度化または終末期に際し、主治医・家族・事業所と密に連携を取り、家族の揺れ動く思いに寄り添い、事業所側のできることを詳しく伝え、その上で何度も主治医を交えて相談する機会を持ちました。コロナ禍ではあったが工夫し、関係者が心置きなく面会することもできています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修実施、緊急時対応マニュアルを共有している。また訪問看護の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	民生委員や区長、行政の方にも参加していただき、年2回の避難訓練を実施している。	年2回火災地震風水害の想定で防災訓練を行い、通報訓練、消火器の使い方、AEDを使っの救急訓練等を行います。今年度は1回は地域の方の参加で行うことができました。また、地区の消防団の協力体制もできています。夜間想定シミュレーションやマニュアルを活用し、職員全員に避難ができる体制を整えています。	備蓄品(水、食料、他)の確認を定期的に行い、利用者にも防災の意識を持ってもらえるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全職員マナーポリシーを心掛け対応している。定期的な研修を実施する事により、個人の尊重とプライバシーを損ねない意識を高めるようにしている。	「ツクイマナーポリシー」の元、利用者への細かい配慮が来ています。特に排泄時、周りに気付かれることなくさり気ない声掛けで誘導したり、本人が失敗したときは気がつかないように対応するなど、きめ細かなケアが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴する姿勢を大事にし、選択できるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様の生活歴を元に、その方のペースや体調を考慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容に関しては促しの声掛けをしたり、着る服に関しては一緒に選んだり、季節感も大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	地域の名産品や馴染みの料理等の提供を行ったり、食事の準備や片付けも一緒に行うなどしている。	外注の食材で日々の食事を提供しているが、週1回は行事食(敬老会 新年会 クリスマス等)や特別メニュー(揚げ饅頭 中野のキノコ料理 新潟コシヒカリ タケノコ汁等)にし、利用者の好みにあった食事を提供しています。ホットプレートを使って利用者と一緒に作ったり、チョコフォンデュや手作りプリン、畑で収穫したスイカやカボチャが食卓に並びます。食器拭き、食材の下ごしらえ、盛り付け等行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	疾患との関連を考慮し、主治医や訪問看護から助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々のADLに合わせ、見守りや介助等で、毎食後口腔ケアを行っている。職員間で、身体状況に合わせて必要な物品の検討もしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや定時誘導をしている。必要な方へは、見守りや付き添いを行っている。職員全員が共有できるよう、排泄チェック表を記入している。	排泄チェック表の活用で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、実際に失禁が改善した利用者がいたとの話が聞けました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量や食材を考慮している。運動を促したりや腹圧がかかりやすいように、声掛けやマッサージ等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日を設定しているが、体調や気分を考慮し、快適に入浴して頂けるように日時の調整も行っている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の意向に合わせて、入浴時間や曜日職員を変え対応しています。移動式のシャワーチェアの使用により、安全に入浴ができます。季節風呂はしょうぶ湯 ゆず湯 バラ風呂等提供し、楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣や疲労感、本人の希望により必要な方は午睡をして頂いている。夜間は居室の照明や温度、寝具など調整をし、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルで服薬情報の管理をし、職員が常に確認出来るようにしている。薬剤師による居宅療養管理指導も入るので、専門家への相談や助言が受けやすい体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	長年過ごしてきた馴染みの生活を大切に取入れられている。季節ごとにイベントを行い、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	制限はあるが希望があれば、可能な状況範囲で外出している。月1で、移動販売車に来てもらう事で買い物を楽しんでもらっている。	コロナの感染状況を考慮しながら、密を避け、一人ずつ買い物をする機会を作ったり、近所に散歩に出かけたりしています。特に移動販売車の受け入れは利用者の大きな楽しみになっています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金管理ができる方に関しては、職員見守りで自己管理をしている。他の方は立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温管理や換気、日差しの調整は常に配慮している。季節感を感じられるような作品制作をし、展示や装飾をしている。	日中過ごす共用の居間はゆったりとして落ち着いて過ごせるよう工夫されており、キッチンからの食事の良いにおいも漂っていました。季節の壁画や利用者の写真が飾られていて、自宅にいた時と同じ服装でリラックスされている方もいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	職員が介入し、座席の配慮など穏やかに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのあるものを持ち込んで頂き、穏やかに過ごせるように努めている。	居室は明るく、居心地よく過ごせるようになっていました。米寿の方の居室には家族一同が集まり、お祝いした時の写真やそれをもとにしたイラストが飾られており、あたたかな雰囲気が伝わってきました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所手すりを設置し、安全に移動できるようになっている。居室には表札をつけ、トイレもわかりやすいように工夫している。		